中京女子大学

同窓会ニュース

1994. 12. 1　No.12

■発行 中京女子大学同窓会
〒474 愛知県大府市横根町名高山55
TEL 0562－46－1291

第11回同窓会総会日程のお知らせ

第11回中京女子大学同窓会総会の日程が決まりました。今回は、学園創立90周年記念行事が、平成７年11月１日に実施された後、右記の日程で同窓会総会となりますが合わせて皆々様方のご協力をお願いいたします。また総会の日程が来年のことでありご記憶が薄れる恐れもございますが、どうぞお忘れなく大勢ご出席下さいますようお待ちしております。

日　　時　平成７年11月19日（日）
　　ＡＭ11：00～ＰＭ３：00
場　　所　みかど　□（0562）48－0220
会　　費　5,000円
交通案内　ＪＲ大府駅下車　徒歩３

新役員の紹介

第10回同窓会総会（平成5年11月28日）において、満場一致で下記の役員が決定いたしました。

会　長	石川　八重	（短体28年度卒）
副会長	上梨　敦子	（短体30年度卒）
〃	溝口百合子	（　〃　）
書　記	荻本　孝子	（　〃　）
〃	片桐　勝子	（短体40年度卒）
〃	太田　昌代	（〃 35年度卒）
会　計	木村　ミエ	（〃 33年度卒）
	杉本扶実子	（短家32年度卒）
監　査	螺　　沢代	（短体35年度卒）
	山口ひな子	

新会員を迎えて

平成五年度卒業生

第１回	大学院 健康科学研究科	4名
第28回	体育学部 体育科	114名
第26回	家政学部 食品・栄養学科	55名
第26回	家政学部 児童学科	70名
第43回	短期大学部 体育科	120名
第45回	短期大学 生活科学科	145名
合　計		508名

会長就任のごあいさつ

会長　石川八重
（昭和29年度体育科卒）

第10回同窓会総会（昨年11月28日開催）に於いて会長に選出されました。前会長の高橋知予子氏は初代会長として永きにわたりすぐれた指導力と、会員の皆様のご協力によって本会の礎を築いてこられその業績も特筆すべきものがあります。そのような名会長の後任として浅学非才のものがはたして会長の重責が務まるであろうかと、はなはだ心もとない次第ですが、この上は他の新役員の方々と一丸となって「会員相互の親睦をはかり母校の発展に寄与すること」を目的とし誠心誠意取り組んでいく所存でございます。

さて私共新役員の活動方針を三つかかげました。先ず平成７年度に創立90周年記念式典の大きな行事が筆頭にあげられます。この事につきましては既に定例の役員会を設け協議を重ねてまいりました。その内容は近未来的展望に立ち大きく変貌する本学園の改組転換にともなう学習設備の設置等を同窓会からの寄贈とする件がキーワードとなっています。同封いたしました趣意書をご覧いただき会員の皆様の絶大なるご理解とご支援を賜りたく思っております。

次には約９千人に近い同窓生の連携を密にするため各学年毎に幹事を設け、卒業以来の幾星霜を過した同年の方々との交流ができることが本会の発展の基とも思われますので、実現する方向で進めてまいります。

三つ目の活動としては支部組織の拡大と充実です。現在のところ関東支部、九州熊本支部、関西支部、沖縄支部が結成されていますが、又東北、北海道にも呼びかけをして近い将来に結成の声をお聞きするのを期待いたしております。

昭和52年に大学同窓会（なでしこ会より独立）が設立してその歴史は浅く各地域における同窓生のご活躍や諸情報の収集ができかねております。以上極初歩的な活動かと思いますが皆様方のご理解を頂きながら頑張ってまいります。最後になりましたが同窓会に関するご意見をお聞かせ下さい。同窓の皆々様方のご健康をお祈り申し上げます。

めぐりあいを大切に

副会長　上梨敦子
（昭和30年度体育科卒）

私は、平凡な主婦でございます。今日まで、経験を名して得た事を少し書かせていただきます。子育ての時期には、ＰＴＡ活動を通し沢山の人々とのめぐりあいや、さまざまな考えの方々との交流の中で、多くの事柄を学ばせていただきました。現在は地域社会の中で、自分に合った何かを見つけ取り入れる事が、生甲斐に通じる大切な事だと考えます。さて私達は何度も同窓会ニュースに取り上げていただきました。卒業以来延々と級会の続いている昭和30年度体育科卒生でございます。現石川同窓会長にも何度となくご出席いただき会を盛りあげていただき、今年も有馬温泉にて(８月27、28日集い）次年度三重県での同窓会をたのしみに別れを惜しみながら帰路に着くというのが恒例になっております。盛り沢山の話は夜のふけるのも忘れてしまう位です。仲間の人生を通して共に喜怒哀楽を分ち合い、互いに励まし東奔西走する仲間なのです。この思いやりの心が現在まで我々を導いてくれた最大の要因と確信しております。同窓の皆様めぐりあいを大切に級会を持って下さい。それは、仲間の人生から多くの事を学び、自分の人生に大きく支えになっていることです。最後になりましたが同窓の皆々様のご健康をお祈りし、微力でありますが同窓会の為に力を注ぐ所存でございます。合せてご協力賜りますようお願い申し上げます。

大学の学部改組と新しい学部学科の設置について

江　藤　義　春
家政学部長
改組転換等推進委員会委員長

異変とも云うべき夏の暑さも過ぎ、いつの間にか年の瀬を迎えようとしていますが、卒業生の皆様には益々ご健勝でご活躍のことと思います。

さて、明治38年（1905）に創設され、これまで多くの優れた卒業生を送り出してきた本学園も平成７年には創立90周年を迎えることになり、現在そのための記念事業がいろいろと計画されているところです。

この間、短大では、昭和63年４月に家政学科を生活科学科に名称変更するとともに、体育学科の入学定員を50名から100名に、また、平成元年の４月には生活科学科の入学定員を50名から100名に増加して社会のニーズに着実に対応して参っております。

また、大学の方は、体育学部が昭和38年、家政学部が昭和40年に設置されて以来、それぞれ32年と30年という歴史を経て今日に至っております。

本学園の創立者である故内木玉枝先生の掲げられた「健全で円満な女性の育成」という建学の精神は、それから90年後の現谷岡太郎理事長、谷岡郁子学長のもとでも、「心身ともに健全でたくましく、英知と創造性に富み、広い視野とバランス感覚で人生を積極的に生きる女性の育成」という新しい形で引き継がれてきております。しかし、急速に進む国際化、情報化、高齢化等の社会状況の変化は、本学はもとより、日本の大学に対してこれまで以上に多様な取り組みを要請するに至って参りました。また、21世紀を迎えようとしている今日、女性の活躍の場も家庭や地域社会から全国、全世界へとよりグローバルになってきております。

そこで本学では、こうした社会状況の変化を踏まえながら、しかもこれまで培ってきた女性教育のパイオニアとしての伝統を受け継いで、新しい時代に的確に対応できる女性の育成を目指すための学部、学科の再編成とその内容についていろいろと検討して参りました。その結果が、平成７年４月からの開設予定で現在文部省に認可申請を行っております体育学部と家政学部の改組に伴う「健康科学部」と「人文学部」の設置です。両学部とも「人間の真の幸福」を追究するもので、特に「健康科学部」は「人間と健康」について、また、「人文学部」は「人間と文化」について教育、研究しようとするものです。

つまり、健康科学部は「健康スポーツ科学科」（現在の体育学部体育学科）と「栄養科学科」（現在の家政学部食品・栄養学科）の２学科で構成し、「運動と栄養」の両面から「人間の健康」について追究するもので、平成４年に開設された「大学院、健康科学研究科」と関連させたわが国で最初の新しい学部となります。

また、人文学部は「児童学科」（現在の家政学部児童学科）と新しく設置する「アジア文化学科」の２学科で構成され、児童学科はこれまでの教育的な視野のみでなく、「一人の人間としての健全なこども文化」について追究し、また、アジア文化学科は日本文化の基層であるアジアを鏡として日本を考え直す、つまり、「日本を取り巻くアジアについての認識と理解をより深め、まったく新しい視点で日本文化を捉え直す」ことを目的とした、わが国で最初の、しかも極めて特色のある学科です。

以上のように、中京女子大学は平成７年度から新しく生まれ変わり、新たな息吹と意気込みのもとにさらに飛躍しようとしております。

最後になりましたが、卒業生の皆様のより一層のご活躍を祈念するとともに、母校へのより一層のご支援とご協力をお願い申しあげます。

中京女子大学に就任して

松　浦　義　行
体育学部長

筑波大学を昨年３月に定年退官し、本学に着任して、ようやく２年になろうとしています。女子学生のみの講義室で講義することは私にとって初めての経験で、最初の一年は本当にとまどいました。また、その年は本学が社会の欲求により適切に適応するよう改組・転換するため文部省へ申請を開始した年でもありました。その検討の過程を経験しないまま耳で、頭で理解しながら申請のお手伝いが出来たおかげで、いろいろなとまどいからようやく解放されました。今では、とまどいもあまりなく学生とセミナーで、講義室で討論出来るようになりました。

本学は従来の体育学部体育学科、家政学部食品・栄養学科が、前者は健康スポーツ学科、後者は栄養科学科となり、両学科をもって健康科学部を構成する事になる予定です。したがって、健康科学部は従来の両学科の目標をふくみ、さらに健康により力点をおいた学部として再構成される事になります。健康の維持・増進には栄養、運動、休息は３大必要条件である事は周知のところです。この３条件を適切に両学科のカリキュラム構成において実現し、本学部の教育目標を実現しようと考えています。つまり、健康スポーツ学科の学生は運動についての経験を通しての理解と能力、かつ運動を健康の維持・増進に有効に作用させるための栄養、休息についての知識と技能の獲得ともカリキュラム構成のうえで工夫しているわけです。そして、従来の体育学科の特性の一つであるスポーツにおける競技力の向上も課外活動の充実とカリキュラムに組み込まれた実技の実習とともに一つの重要な柱となっています。栄養科学科の学生は運動・スポーツに対する理解を深められるようカリキュラムが工夫され、専門とする栄養学の知識・技能を運動、休息と関連ずけながら健康の維持・増進に貢献出来る人材の養成をねらいとしています。

以上のように健康科学部は現代の科学の成果を人間の幸福の一面である自分の健康及び他人の健康により有効に貢献できる女性の育成をめざして、本学のこれまでの蓄積を基礎として再構成されたものです。しかし、社会の要求は今後も変化を続けていくでしょうから、これに柔軟に適応出来る組織としての柔軟性を持ちつつ教育・研究が期待される所です。変化は混乱を生じさせますが、この混乱が存在するが故に発展が期待されると云えます。

同窓生の諸姉にはかかる変化がより望ましい発展に繋がるよう見守って頂きたいと思うし、そのために苦言も頂きたいと思っています。

学生から中京女子大学職員になって

山　田　昌　美
（平成５年度体育学部
体育科卒）

平成５年度に体育学部体育学科を卒業後、中京女子大学教学課に就職しました。

卒業生という環境の良さと、学生から職員になったという立場の変化に戸惑いながらも、あっと言う間に１年が過ぎようとしています。

社会の厳しさや、辛さも実感しました。学生とふれ合って仕事をすることは、大変な面も勿論ありますが、私にとっては、本当にやりがいのある仕事だと思っています。仕事もまだまだおぼつかない状態ではありますが、私自身の経験や、学生の立場になって考えることが出来るのは今だけであると思い、それを生かして仕事をするよう努力しています。

社会人１年生でまだまだ未熟でありますが、今後とも、大学のために、学生のためになる仕事を続けられたら…と思っています。

そして、私達卒業生は卒業後のつながりをもっと身近に感じることが出来るようにしましょう。

いつでも大学に連絡して下さい。

貞廣千波選手を4年間指導して
（日本インカレ4連覇と今後に向けて）

阪　本　孝　男
短期大学部体育科助教授
陸上競技跳躍コーチ

貞廣選手の大学４年間を振り返ると、陸上競技選手としての輝かしい活躍と共に、人間的な成長が印象に残っています。

香川県の田舎（ごめんなさい）から出てきた当時の貞廣選手は、18歳の女の子としては、ちょっと暗いかな、という印象がありました。入学後しばらくはあまり笑顔を見ることがなかったと思います。しかし、大学生活に慣れるにしたがい、徐々に積極的になってきました。大学内の友人関係をはじめ、全日本の合宿、海外遠征への参加など色々な人との交流が、人間的な成長に大きな影響を及ぼしたものと思われます。

貞廣選手の大学４年間の競技歴については、ここで述べるまでもなく大変すばらしいものでした。大学を卒業後も実業団に入って陸上競技を続けるわけですが、自分の能力を信じ今まで以上に努力し、ぜひオリンピックに出場して活躍してください。

北京体育大学第１回交換留学を終え学んだこと

桑　原　鈴　代
（体育部体育学科4年
陸上競技部主将）

1993年６月に調印されたばかりの中華人民共和国・北京体育大学（旧北京体育学院）に、'93年10月から'94年８月まで第１回目の交換留学生として、中国語と陸上競技（円盤投）について学んでまいりました。北京体育大学は中国唯一の体育大学であり、オリンピック出場選手はもちろんのこと各種の世界チャンピオンが多数在籍している大学でもあるわけです。私は調印される以前にも２回北京大学を訪れ、円盤投のトレーニングを行なっておりますが、これは言うまでもなく中国の女子の投擲レベルが世界レベルに達しており、同じアジア人として一体何が違うのか、どのようなトレーニングを行なっているのか自分の目で実際見てみたかったからなのです。

今回は中京女子大学の代表として留学させて頂いたわけですが、母国・日本を離れて生活したことにより今までとは違った角度から日本を見ることができるようになったと同時に、風土・習慣等が全く異なる中国において、北京体育大学の教師、学生を始めとする沢山の中国人の方々と交流が持てたこと、そして古い歴史を持つ中国の伝統文化に実際自分の肌で触れ体験し得たことは、全て私の貴重な財産と化しております。この世界情勢の変化に富んでいるこの時期に留学させて頂けたことは、私の中に本来あった“国際社会・国際人”というものに対して、より一層興味・関心が高まったことは言うまでもありません。また、友達の輪も日本各地から世界各国へと広がり、国籍・人種等にこだわることなくあらゆる国の人々と、表面だけでなく、心の奥底から本音で話し合える友情が芽生えたこと、とても嬉しく思っております。

最後に1997年香港の中国返還を目前に控え、中国は21世紀に向けて目まぐるい改革がなされている真最中でありますが、今や世界中から注目を浴びているアジア・中国で学んだ全てを、今後の自分自身に役立たせることができたらと考えております。短かい時間ではありましたが中国語、陸上競技はもちろんのこと、これ以外に沢山のことを学ぶことができましたこと、本当に心より感謝しております。

新会員の声

中川　泰代

（昭和47年度栄養学科卒
平成5年度大学院卒）

母校に健康と栄養・運動に関する大学院が新設されると聞いた時、自身の勉強不足を強く感じ仕事に充実感を見いだせないでいた私は、もう今が最後の年齢だと思い、再び『学生』に変身しました。

なつかしさと新鮮さの混じった学舎で、若い人達のエネルギーに圧倒されながらも、思いきりアカデミックな雰囲気を満喫することができました。溢れんばかりの情報や新しいシステムには、戸惑う事も多く、知力・体力の衰えも隠せませんでしたが、心の中に何がしのおもしを頂いて２年間が修了しました。同年配の働らく女性の中でも、こんな間々の許された己（おのれ）の幸せを感謝しました。

不況によるリストラで、元の職場への昇格復帰は夢と消えましたが、栄養専門学校の非常勤講師の職を得て、私が今まで学んできたことを学生に伝えようと一生懸命で、まだまだ勉強は続きます。そして、“人生って以外にすてたもんじゃないな”と、笑みのこぼれる日を期待しています。

森下まり子

（平成5年度体育学部
体育科卒）

私が、地元の渥美町役場に就職し、早くも半年以上が経ちました。渥美町は、愛知県の最南に位置し、伊良湖岬という観光の名所がある小さな町です。その渥美町に今春出来たばかりの、渥美町文化会館が私の職場で、主に会館で行われる事業の企画・運営に関わる仕事をしています。町側にとっても、初めて芸能面に関わる仕事なので、私を含めて、何をどうしたら良いのか分からない職員ばかり、四苦八苦しながらも皆んなで力を合わせて頑張っています。ですから、公務員といっても、残業はもちろんのこと、出張、研修も多く、女だからといって甘やかしてはくれません。こんな時、学生の頃は良かったなァと、仲間と飲みに出掛ける事もよくあります。

しかし、テレビや新聞で「中京女子大学」の名を聞くと、後輩も頑張ってるなァと胸が熱くなり、母校を誇らしげに思います。それが、勇気となり大きな活力となって私を励ましてくれるのです。

これからも、私に出来る事、私にしか出来ない事を精一杯頑張って、この小さな町から文化の芽を育てていきたいと思っています。

立川　統子

（平成5年度児童学科卒）

「おはようございます。」

私の１日は、この言葉から始まる。どこの職場でも見られる朝の光景かもしれないが、私の場合は、おちゃめでやんちゃな25人の子どもたちと交わす、大事な大事の朝の日課である。

４月、講師という立場であるものの、念願かなって教師となることができた私は、新しくクラス編成されたばかりの３年生、25人の担任となった。あれから半年、毎日が戦争であったことは言うまでもない。子どもたちは、十人十色、体当たりで私にぶつかってくる。技術のない私は、子どもたちの思いを、共に泣き、笑い、苦しみ、喜び、やはり体当りで受け止めるしかなかった。時には、恩師日く「金八先生」か「徳川龍之介」かといったところらしい。大学生活４年間を、共に過ごした友ならば、納得できる姿のはずである。いつも元気な統子ちゃんは、いつも元気なタッチー先生として健在である。

村上　桂子

（平成5年度
食品栄養学科卒）

私は現在、三重県立鳥羽高等学校で元気な生徒たちと相手に毎日奮闘しております。１年家政科の担任をさせて頂いているのですが、今や校内でも飛びっきり元気(?)といわれる彼女たちのパワーは、どんどん増すばかり。私も負けじと頑張っております。１年前を思い出してみますと、教採を終えて卒論に集中し、ほとんど大学にこもりっきりの生活でしたから、朝の早起きを除けばこの環境の変化は本当に大きなものだとつくづく感じます。苦しい大きな壁にぶつかることはしょっちゅうですが、一方で生徒を通してこれまでになかった多くの事を経験することができ、この道を選んでよかったと思っております。また同時に、ここにくるまでに私を支えて下さった多くの人に感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも生徒と同じ土俵に上る、という初心を忘れることなく、一歩ずつ前進していきたいと思います。

朝山　理加

（平成5年度短期体育学部
体育科卒）

月日の流れは、本当に早いものでこの私が社会人として歩きだしてからもう半年以上が過ぎてゆきました。カワイに入りたての４月～７月あたりまではとにかく毎日が必死で、食物もろくにのどを通りませんでした。そんな時期を少しずつ通り抜け現在に至っている訳ですが、ようやく自分のリズムというものがつかめた様な気がします。今、私の持ち生徒は120名いるのですが、１人１人の名前、顔も覚え、“自分の生徒なんだ”という自覚も４月に比べるとはるかに強くなりました。子供は大人と違い、本当に純粋で素直です。実際子供達に、元気づけられたり、教えられる事も多いです。私自身、社会人１年目でまだまだこれから、数多くの経験を積んでいかなければいけません。子供達に運動を教え、その中で子供達が運動の楽しさを心身で感じていってくれたら素晴らしいと思います。そして自分も子供達と一緒に成長してゆける様、私らしく、前向きに頑張っていきたいです。

早川　　薫

（平成5年度生活科学科卒）

先日、卒業アルバムが届き、卒業式から半年程しか経過していませんが、懐かしい気持ちで見ていました。卒業後の私は、家業の手伝いをしながら習い事をしていましたが、先月から、社会勉強も兼て、市役所の方でアルバイトをさせていただいています。市役所での仕事は、初めての事ばかりで、周りの方々に助けてもらいながら一つ一つ仕事を覚えている毎日です。アルバイトが決まった時は、家業の仕事と習い事が疎かになってしまうのではと思っていましたが、結果は逆で、前よりも家業の仕事を一生懸命するようになり、習い事の方も気持ちの入れ方が変り、今はとても充実した毎日を過しています。

私自身、卒業を目の前にして、これからは何をしたらよいのかわかりませんでしたが、卒業して、家業の手伝いをし、アルバイトをして、少しずつですが、自分に何が合うのか、必要なのかが分ってきたと思います。

学園創立90周年記念事業から寄付のお願い

同窓会会員各位殿

中京女子短期大学同窓会
会 長 石 川 八 重

会員の皆々様には日々ご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、平成７年度には、学園創立90周年を迎えます。最近の中京女子大学は昭和63年以降学部学科の定員増に加え、平成４年度には大学院（健康科学研究科修士課程）を開設するなど、教育の充実発展に努力してこられました。更に、この度は、従来の体育学部（体育学科）家政学部（児童学科、食品・栄養学科）を改組し、時代の要請に応えるべく、健康学部に健康スポーツ科学科、栄養科学科と人文学部に児童学科、アジア文化学科を新設し、平成７年開設を目指し現在文部省に申請をされています。

中京女子大学同窓会は、昭和52年２月に設立されてから早いもので17年を経過いたしました。「会員相互の親睦をはかり母校の発展に寄与すること」を趣旨として発足し、努力してまいりました。この間同窓生の方は8,500名、平成５年度卒業生を合せて、9,000余名となります。

平成5年第10回同窓会総会において新役員が決定し、平成７年11月19日に第11回同窓会総会と云う２年おきの総会と相成ります。従って平成7年は学園創立90周年行事と前後いたします。

以上のことからこの記念事業を教育後援会（在学生会員1,400余名）教職員と共に同窓会も支援することを役員会で協議し、この記念事業を支援するための寄付を行うことが決り、ここに募金活動を実施することになりました。

中京女子大学の今後の発展のために、同窓会会員一同心を合わせ一層努力してまいりたいと思いますので、何とぞ皆々様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（注）一万円以上のご寄付を戴いた方々には名簿をお送りいたします。

編 集 後 記

愛知県で開催された（10月29日）わかしゃち国体で本学から優勝者が4名出ました。また600名の学生による集団演技を披露でき、国体に参加して満足感を持ったようでした。

○陸上部　体育学部体育科4年生　貞廣千波（走高飛び　1m90）

○なぎなた部　家政学部食品・栄養学科1年生（成年1部団体）

○山岳部　体育学部体育科2年生（成年女子登はん）

○ボーリング同好会　短期大学部生活科学科1年生（成年女子2部個人）

見事優勝いたしました。

1994年も終りに近づきましたが、事務局も公務と同居しているという立場から、年の瀬もせまっての発送を何とぞお許し下さい。これからも皆々様のお助けをいただきながら頑張ります。ご意見等ございましたらご遠慮なく申して下さい。

（溝　口）